

第2回图（ふゆをかこむ）展 サイドバイサイド

企画展とワークショップ報告

The scored Exhibition of Graphics Special exhibitions and workshop report

●辻合秀一／富山大学学術研究部芸術文化学系

TSUJIAI Hidekazu / Faculty of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: 3D movie, Sugegasa Projection Mapping, Installation, Interactive art

1. はじめに

2022年8月6日（土）から27日（日）に青井記念館美術館で第2回图展を開催しました¹⁾。この企画展は、辻合の研究や創作活動だけでなく辻合研究室に関わる学生や卒業生の発表の場として開催しました。今回は、特別に小川太郎先生から平文飾箱「かざぐるま」を展示して頂きました。

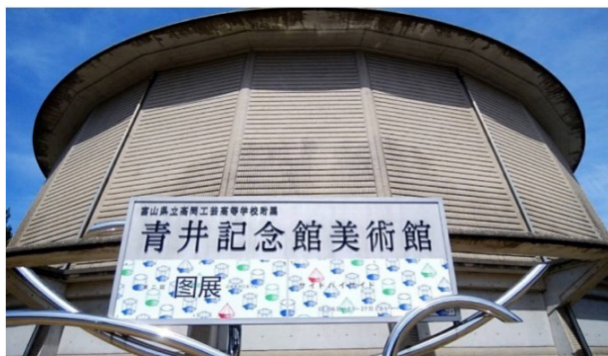


図1 開催会場の青井記念館美術館。

「图」は、何だろう、創作漢字だろうかと思われたかもしれません。実は、「囟」を中国語の漢字で「图」と書きます。富山大学名誉教授山田眞一先生に調べて頂いたところ、

【图】「圖」の簡化字。

草書を楷書化したもの。清代の大衆小説や徽州档案文書に近形の字が見える。

とわかりました。

辻合は、中国でたびたび「图」の字を見かけました。くにごまえの中に冬という字の構成が、雪国富山を連想すると常々思っていました。そこで、この企画展を図展（ふゆをかこむ展）としました。なぜなら、この企画展が「图学」を中心としたものだからです。

「图学」は、「图法幾何学」を短縮した名称です。現在、「图学」は、「图形科学」と解釈し、「囟」に関連する研究分野となっています。そして、辻合はコンピュータグラフィックスや画像処理が専門です。

この企画展では、富山大学芸術文化学部生と高岡工

芸高校生が3D制作ワークショップと3D映像上映を行いました。また、GEIBUN13に展示した作品を含む24点の展示を行いました。その中には、卒業研究・制作から発展したインタラクティブ展示もありました。

開催会場の看板、ポスターおよび図録の表紙は、サイドバイサイドをイメージし岩佐月さんが作成しました（図1）。

2. 3D制作ワークショップと3D映像上映

3D映像データは、横幅を半分に圧縮して左右の画像を1枚にするサイドバイサイド方式という方式があります。企画展のサイドバイサイドは、ここからサブタイトルを取りました。3D制作ワークショップは、高岡工芸高校生デザイン研究部希望者を対象にシナリオから3D映像制作までを3回に渡って行いました。3D上映作品は、富山大学芸術文化学部生と高岡工芸高校生が3D制作ワークショップで作成したものです²⁾。



図2 3D映像（制作：荒屋成美、岩佐月、辻合秀一、高岡工芸高校 デザイン研究部・美術部員）。

3. 菅笠プロジェクションマッピング 2022

青井記念館美術館の半分の場所の照明を消し、暗い中の半分で 3D 映像展示を行いました。残りの半分は、ハンディプロジェクタを用いて菅笠プロジェクションマッピングを行いました³⁾。



図 3 菅笠プロジェクションマッピング 2023。

4. GEIBUN13

富山大学芸術文化学部卒・修了制作展 GEIBUN13 に展示した 3 点を展示しました。アニメーションとして、日本図学会中部支部最優秀奨励賞を受賞した「春の町」⁴⁾と口頭発表部門の映像表現・芸術科学フォーラム 2012 優秀発表賞を受賞した「Shinon」⁵⁾とインタラクティブ作品「うなずきながら演奏する楽器 2022」⁶⁾を展示しました。

5. 卒業研究・制作中の 4 年生と院生

4 年生から「ヘルスケアアートのマネージメント—予算確保と人材育成—」のポスター展示、院生は、「古城公園」と「時代と文化を紡ぐ」の動画と、vvvv 言語で作成した Leap Motion センサーを使ったインタラクティブ作品「crash」を展示しました。

6. 日本図学会中部支部夏季例会

8 月 23 日 (火) には、展示会場内で日本図学会中

部支部夏季例会を行いました⁷⁾。長柄毅一学部長の挨拶で始まり、小川太郎先生から「CAD を用いた工芸作品の設計」について招待講演が行われました。また、展示説明 4 件を含む研究発表も 9 件行われました。



図 4 富山大学芸術文化学部学部長長柄毅一教授挨拶。

7. おわりに

その他に卒業生からカードゲーム、豆本、とんぼ玉、キャラクターデザイン、イラストの出品がありました。末筆とはなりましたが、高岡工芸高等学校との御縁により青井記念館美術館で開催できましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

参考文献

1. 辻合秀一、第 2 回図 (ふゆをかこむ) 展、図展企画委員会、2022
2. 辻合秀一、3D 映像制作教育について、図学研究、Vol. 57、No. 2、pp. 17-23、2023
3. 岩佐月、荒屋成美、本野佳司子、安嶋是晴、辻合秀一、菅笠プロジェクションマッピングの展示についての一考察、映像情報メディア学会年次大会、2022
4. 安部夏菜子、辻合秀一、春の町—デジタル作画によるアニメーション—、日本図学会中部支部冬季例会、2022
5. 高崎文菜、辻合秀一、Shion—紙人形アニメーション—、映像情報メディア学会技術報告、Vol. 46、No. 10、pp. 137-140、2022
6. 中居昌輝、辻合秀一、Play with face—顔で演奏する楽器—、映像情報メディア学会技術報告、Vol. 46、No. 10、pp. 131-132、2022
7. 遠藤潤一、辻合秀一、中部支部 2022 年度夏季例会報告、図学研究、Vol. 57、No. 1、pp. 51-56、2023